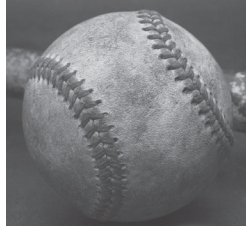


経営と健康



ミスターよ永遠なれ「長嶋茂雄物語」(下)

講談師 一龍斎貞花

ファンに喜んでもらうにはどうしたら
よいか。

少し大きな目のヘルメットをかぶり豪快な空振りで飛ばす。ショートゴロかと思うようなゴロも横つ飛び軽快に捕るや手の平をひらひらさせて一塁へ送球。しかし見せるだけではありません。現役17年間に7本のサヨナラホームラン。ここぞの勝負強さでファンの心をわしづかみにした。

中日・巨人戦ナゴヤ球場。一年目巨人に完封勝利を収めた稲葉光雄投手が、勝利者インタビューで涙を流すのを見て、「喜びの涙を流す若い投手がいるのか、この男大きく成長するに違いない」と、純な心の持主でした。この試合ラジオで私実況放送していましたから知っています。稲葉投手は2年目には20勝、中日・阪急で通算104勝を収めています。

す。巨人以外ならどのチームでも入団すると中日入り。皆巨人を希望する中で、身体は細いが骨のある投手でした。稲葉投手と週刊ベースボールで対談以来親交を深め食事、お酒を共にしました。脳内出血で63歳で亡くなりました。

長嶋・引退試合

時なるかな昭和49年10月14日。

ミスターベースボールの最後を飾るにふさわしく爽やかに晴れ渡りました後樂園球場。この日中日の先発は忘れもしないデビュー戦、初対決の金田と同じ背番号34の左腕投手村上義則。

「我が花道を、自ら飾らんかな」と豪刀一閃すれば打球はぐんぐん舞い上がり、通算444本目のホームラン。

この試合王選手も叩き込み106回

目のアベックホームー。

この日はダブルヘッダー。第一試合が終るや、ベンチを飛び出した長嶋は無人のグラウンドを歩き始めました。

「もし、刺激されたファンがグラウンドにだれだれ込んだら危険、收拾がつかなくなる」

球団は反対したが、めつたに自分の意見を無理押ししない長嶋が、

「朝早くからこれほど多くのファンが来てくれたんです。お願いです。第二試合の後が駄目なら第一試合の後でもいいですから」

「こつち向いてくれ」

「まだ早いぞーう」

「ナガシマー」

手を差し出す女性ファン。

身体を乗り出す老人。

ライトスタンドへ廻った時、突然長嶋の足が止まった。下を向き、思い直して顔を上げようとしたが、必死でこらえていたものが一気にせきを切った。

尻のポケットからタオルを取り出し顔に。涙を拭いてはファンに顔を向け、下を向いてはタオルを。

拍手の波が右から左へ、誰もが泣いています。

歓声と絶叫の中、歩いては止まり、止まっては歩く。

フェンスから身を乗り出して花束を渡した中年の男性ファン。ひととき大きな拍手の中、そのファンに一礼し花束を高々とかかげました。

第二試合が終りその時がやって参りました。

夕闇がグラウンドを押し包み、スポット

ライトの中に長嶋の姿がくつきりと照らし出され、シーンと静まり返った大観衆の前に立つた長嶋。

「昭和38年に巨人に入団にはじまり、巨人軍は永久に不滅です」

と結びました。

ホタルの光のメロデーの中、涙を払い何度も何度もグラウンドを振り返る長嶋。正に燃え尽し日本プロ野球界至宝の上にも17年の歳月が流れ、数々のドラマを残し男のロマンを謳い上げたミスターベースボールは静かにバットを置いたのでございました。

最優秀選手賞5回、首位打者6回、本塁打王2回、打点王5回、ベストナイン16回。日本シリーズ最優秀選手4回、優秀選手2回、首位打者2回。

記録だけではありません。持つて生まれた野球の申し子、さればこそミスターベースボールと称されたのでございます。この年中日が優勝し巨人10連覇ならず川上監督も引退。ところが長嶋引退が日本中の話題をさらい、川上引退の扱いが小さくなってしまった。

V9 監督、神様と言われた川上さん、面白いはずがありません。

「おのれ茂め、いつかこの仕返しを」と、恨みをつのらせていきました。

長嶋新監督

「背番号3番で三塁だったから、3×3で90番がいいよ」

一茂君の意見で背番号90番と決まった長嶋新監督。

バントの格好しながら「ピンチヒッター上田」毎日新浦新浦。この年中日に8勝17敗1引分、17も負け最下位。実は最下位の原因は監督に就任するや神田明神に必勝祈願。

「元日に貫主に続いて大護摩を焚くのに、ライバルの神田明神に参るとはと、成田のお不動さんが怒ったんですよ。神田明神は平将門を祀り、将門の乱を鎮めるために創建されたのが成田山ですよ」と、長嶋さんに話をするや、「それは知らなかった」と。

伊東の地獄キャンプの甲斐あつて2年目優勝。しかし北海道シリーズでは出る投手出る投手四球で9連続四球の新記録。

「センターの柴田は、投手経験があるから投げさせるか」

「勘弁してほしいと、思わず逃げ出したよ」と、杉下ピッチングコーチ。

3年目の昭和53年8月8日広島との第二戦。先発角と二番手西本が不調で7点リードしていながらやっと勝利。

宿舎へ帰るや西本を呼びつけ

「今日のお前達のピッチングはなんだ、悔しくないのか」

言うなり杉下コーチの前で二人に激しくビンタ。なぐるのは星野さんだけじゃなかった。杉下コーチは

「西本、明日もう一度行くか。先発だぞ、その気があれば監督に談判してくる」

実は監督とコーチの芝居で、第三戦西本先発、連投の西本5回までに4点取られてベンチに下がるや長嶋監督、

「西、今日は良かったぞ。気迫で打者に向かっていた。今日の気持ち忘れなよ」と大声ではめ、長嶋監督の気配りにより連続優勝。しかし6年間一度も日本一にならない監督はダメと首。解任はまずいと辞任という名目。引退挨拶状を頂きました。

「長嶋さんを首にした会社の新聞は読みたくない」と、100万部も購読が減り、テレビの視聴率は20%を割る。これを救うのは長嶋より他になしと、平成5年監督に復帰。栄光の背番号3番を復活。2月の宮崎キャンプに延べ30万5000人、経済効果55億円、いかに待ちわびていたかが分かります。

平成6年10月8日、復帰2年目の最終戦、勝ったチームが優勝と命運をかけた世紀の中日・巨人戦、

「我が巨人軍は、勝つ勝つ勝つ」

この気合に選手全員「オーツ」と応え、見事力リスマ性の勝利でリーグ優勝。球史に残る10・8。

平成8年、11・5ゲーム差を逆転しメークドラマが流行語に。

平成12年、日本シリーズON対決、2度目の日本一、リーグ優勝5回。

翌年監督辞任。アテネオリンピック日本代表監督に就任するも、脳梗塞を患い、指揮を取れませんでした。

国民栄誉賞、文化勲章受章。東京オリンピック聖火リレーに参加。

再起を目指して21年間の病との戦いむなく、2025年6月3日89歳をもつて永遠の旅路に。この日は喪主を務めた次女三奈さんの誕生日でした。

「オレが死んだ時には棺桶の中に、背番号3のユニフォームを入れてくれよ。オレはジャイアンツの長嶋なんだ、オレの身体のことを切つても巨人の金太郎飴なんだ」

長嶋茂雄の歩んだ道は、日本プロ野球の歴史を築いたと言っても過言ではないでしょう。日本プロ野球最大の英雄、ミスターベースボール。さらに国民的英雄とまで謳われました長嶋。

ミスターよ永遠なれ。「長嶋茂雄物語」これをもつて読み終わりと致します。